

# 令和6年度新規採用職員に聞いてみました！



まず最初に、検察庁を志望した動機は？

Kさん：私は、推理小説や刑事ドラマが好きで、警察官になりたいと思ったこともありましたが、刑事事件や公判について調べていく中で、検察庁の存在を知り興味を持つようになりました。業務説明会で、松山地方検察庁の和気あいあいとした雰囲気や、職員が責任と誇りを持って仕事に取り組んでいる姿を見て、私もここで働きたいと強く思うようになり志望しました。

Iさん：私が松山地方検察庁を志望した理由は、事件の捜査から公判までの、検察庁でしか経験することのできない幅広い業務に携わることができるということです。



入庁前と入庁後で感じたことは？

Sさん：私が松山地検に入庁するまでは、テレビドラマ、ニュースなどの影響で、堅くて怖いイメージが少なからずありました。しかし、松山地検の上司・先輩方は、気さくな方ばかりで楽しくメリハリを持って業務に取り組んでいます。また、私が理系出身ということもあり、法律科目について知識があまりなく不安を抱えて入庁しましたが、研修制度が充実しているだけでなく、上司の方々が優しく丁寧に教えてくださるので、不安なく仕事できています。

Yさん：私は入庁前、検察庁の仕事について、「堅い」、「デスクワークが多い」というイメージを持っていました。しかし、実際に入庁してみると研修等が充実しており、業務に必要な知識を学ぶ機会が多く、働きやすい職場だと感じています。また、デスクワーク以外に庁外での業務もあるため、日々の業務に刺激があり、やりがいを感じながら働くことができます。



業務内容などについて？

Iさん：私は、現在、証拠品担当に所属しています。証拠品担当が行う業務には、警察等から送致を受けた事件の証拠品の受理や証拠品の保管、差出人から提出を受けた証拠品の還付や証拠品に関する書類の整理など様々な業務があり、検察官が捜査を行っていく上で欠かせない役割を担っています。検察庁では専門性の高い業務が多岐にわたって行われており、常に責任感が伴いますが、その分、業務をやり遂げた時の大きな達成感は、検察庁でしか味わうことができないと感じています。

Tさん：私が担当している徴収での業務では、裁判が確定した罰金や料料などの財産刑の執行等に携わり、罰金を納めてもらえない未納者には電話をかけたり、家を訪問して督促したりしています。徴収の業務をしていると、なかなか罰金を納めてもらえないこともありますが、粘り強く何度も働きかけることで、最終的に罰金が納まった時には達成感を感じます。加えて、徴収では個人情報を取り扱うため、誤った事務処理をしてしまうとそれが人権侵害になる可能性があり、責任は重いですが、非常にやりがいのある業務です。



初等科研修（最初の長期研修）に参加しての感想は？

Yさん：研修では、1つの事例についてグループで意見交換をしながら検討したり、効果測定前に集会場に集まって問題を出し合ったりすることで、不安だった法律科目を研修同期と絆を深めながら、楽しく学ぶことができました。

Kさん：初等科研修では、同期35名と約1か月生活を共にし、法律や実務の基礎知識を学び、また、講義後や休日は、同期と懇親を深めることもでき、一生の思い出になる充実した研修となりました。